

321化学設備を起因物とする死傷災害100事例まで（2018年）

No	年	月	発生時	死傷災害事例	年齢	事故の型	小業種	労働者規模
1	2018	1	13 ～ 14	工場1階にある濾過循環ラインの不純物除去フィルタ前で、フィルタ掃除を行う際に、本来はライン内を空にした状態で作業をしなければならいところ、製品が残ったまま、フィルタを取り外したことで製品が吹き出し、顔面に浴びて目を負傷した。	23	12	10801	30 ～ 49 人
2	2018	2	3 ～ 4	洗浄滅菌作業でラインを変更するため、f金具を取り外すところ、誤ってe金具を取り外したため、排水中の88℃洗浄温水が、取り外したe金具から噴き出し両足首から甲に掛かり火傷した。	42	11	10899	300 ～ 499 人
3	2018	4	11 ～ 12	ナウター乾燥機から薬品の取り出し作業後、内部点検のため、ナウター乾燥機上部のマンホールを解放した。マンホール内の写真撮影後、次の動作に移った際に、マンホールの蓋が倒れ、マンホール上縁部に掛けていた左手親指をマンホール上縁部とマンホールの蓋に挟まれ、負傷した。	20	4	10801	50 ～ 99 人
4	2018	4	10 ～ 11	電気炉にて、以前挿入した異物（布きれ）が残存しているのを確認できたため、その異物を高圧洗浄して除去しようと金属製の洗浄ノズルをポンプ内に挿入した。その際に前工程で洗浄しきれなかった、ポンプ手前にあるバルブに残存付着していた副生成物に接触し発火した炎により顔の下半面と左手の平、右手指先に重度の火傷を負った。	29	11	120109	500 ～ 999 人
				THF溶液をドラムに移送後、釜内に残ったマグネシウムの処理をし				

5	2018	5	14 ～ 15	ていた。窒素気流下、釜内に水を張ったのち様子を見ながら数回に分け硫酸仕込みを実施した。3回目の硫酸を仕込んだ後、釜内にガスが充満し仕込み口のガラス窓から内部が見えにくい状況となった。内部確認のため仕込み口の蓋を開けたところ、空気が入りポンという音がして爆発が起こり、爆発によって生じた熱風を顔、首全面に浴び火傷を負った。	49	14	10899	100 ～ 299 人
6	2018	5	5 ～ 6	製油所の積み場でレギュラーガソリンのアーム移動中、バランスを崩し転倒した際、右手から倒れたとき、とっさに付いた右手薬指を負傷した。	64	2	40301	50 ～ 99 人
7	2018	8	10 ～ 11	アルキレーション装置の巡回点検中に、ストレーナーに附属しているスクレーパーのグランドパッキン部の異常確認をしていたときに、内部流体漏洩し、速やかにストレーナーの上下流弁の閉止作業を実施したが、確認ならびに弁閉止作業中に内部流体に被液した。	41	12	10804	500 ～ 999 人
8	2018	10	16 ～ 17	工場内で、稼働中の原液充填機を清掃しようとして、エアシリンダーのマイクロメーター開口部付近に右手を近づけたところ、下降して来たエアシリンダーに右手人差し指を挟まれた。	19	7	10809	100 ～ 299 人
9	2018	10	1 ～ 2	ファスナー部品が入ったケースを台車からコンベアへ自動搬送する際、銅錫メッキ装置の昇降ユニットが下降し、昇降ユニットと台車に胸部を挟まれて死亡した。	61	7	11709	—

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各起因物における死傷災害100事例まで（2018年）](#)に戻る。